令和6年度　小学校高学年における教科担任制の推進

小中学校課

教科担任制推進の概要

これまでの小学校高学年における教科担任制事業の成果を踏まえ、

①学習指導の充実　**②生徒指導の充実等**

③働き方改革の推進　**④中学校への円滑な接続**を視点に、

鳥取県における「令和６年度小学校高学年における教科担任制」を県内の各小・義務教育学校（前期課程）で推進していく。

鳥取県における教科担任制の考え方

◇学級担任間の交換授業

学級担任間の交換授業（国語と算数、社会と理科等）による教科担任制の推進

◇専科教員等の教科授業

特定教科（外国語、理科、算数及び体育等）における専科加配及び級外教員による教科担任制の推進

推進協力校　アンケート結果～肯定的回答の割合～

R5.12～R6.1実施

○授業の理解度の向上

94.1%

○教員が児童と向き合う時間の確保

72.6%

○教員の時間外勤務時間の縮減

80.4%

○小学校高学年における教科担任制は高学年にとって効果的なシステムである

90.2%

成果と課題（令和5年度推進協力校の報告より）

＜①学習指導の充実＞

○教員の得意分野や専門性を生かして授業を行うことによって、児童の興味・関心が高まった。

○教科が絞られることでより深い教材研究ができるとともに、複数回、同一授業を繰り返す中で授業がブラッシュアップされ、児童の理解度の向上につながった。

△教材研究をするにあたって相談できる教員が減り、不安を感じる若手教員もあった。

＜②生徒指導の充実等　③働き方改革の推進＞

○教科担任制を行うことで情報共有する必然性が生まれ、学年に関わる教員同士が話し合う機会が増えた。

○担当する教科が減り、教材研究や授業準備の時間が削減できる。

△情報共有するための時間の確保が必要となる。

＜④中学校への円滑な接続＞

○教科担任制でさまざまな教員が、それぞれの立場で学習に関わることで、児童が中学校の授業システムに慣れてきた。

△小学校教員と中学校教員が各教科の授業について一緒に話し合う機会を設定することが必要である。

令和5年度　県内小学校の事例

＜交換授業と専科等による授業及び中学校教員による授業＞
（５年３学級、６年３学級）

	学年組	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	学活	関わる教員数	担任担当教科数	空き時間数
A先生	5年1組担任	A	A	B	C	I	B	A	A	A	G	A	A	A	5	7	4
B先生	5年2組担任							B	B	B		B	B	B	5	8	6
C先生	5年3組担任							C	C	C		C	C	C	5	7	4
D先生	6年1組担任	E	E	D	F	H	D	K	D	D	J	D	D	D	6	7	6
E先生	6年2組担任								E	E		E	E	E	6	6	5
F先生	6年3組担任								F	F		F	F	F	6	6	6

G～J先生：専科・級外等　　K先生：中学校美術教諭

【担任間の交換授業】　：国語、算数、社会・音楽
【専科や級外等による授業】：理科、外国語
【中学校教員による授業】　：図工（６年生のみ）

今後の小学校高学年における教科担任制の取組に向けて

※学校規模に応じて教科担任制の指導形態を工夫する

①担任間による交換授業によって、教員一人あたりの指導する教科を減らす

②試しに１単元だけで交換授業を行ってみるなど、まずはやってみて「手ごたえ」を実感する